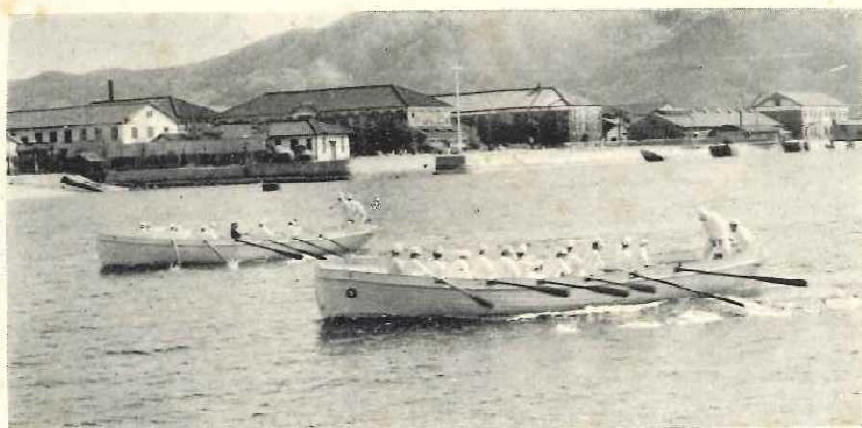


第三回

全日本カッター競技大会



(日時) 昭和34年6月7日(日)
(会場) 呉市若葉町海上保安大学校西海域
(主催) 日本カッター連盟設立発起人会
(後援) 毎日新聞社
スポーツニッポン社
日本海軍新聞社

祝

全日本カッタレース

信用と技術を
誇る

オール・櫓・舵
並ニ木工製品 製作
船具類



諸官衙会社
諸学校 納品
各造船所

高松令三商店

電話 呉 ② 3101 番
呉市海岸通三丁目六五ノ三
工場 呉市海岸通三丁目五一
呉市海岸通三丁目六五ノ五



株式 会社 吳造船所

取締役社長 住田正一
常務取締役所長 正木武雄

吳造船所 吳市昭和通り2丁目1番地
電話(代表) 呉 ② 5171 番
東京本社 東京都千代田区丸の内1丁目1番地オ一鉄鋼ビル内
電話(代表) 東京 ② 1916 番
神戸事務所 神戸市生田区浪花町64番地三宮電々ビル内
電話(代表) 神戸 ③ 3776 番

目 次

目 次..... 1

換 摺..... 2

大会役員及大会委員..... 3

コース附近略図..... 4

各校クルー..... 5~10

審 判 規 則..... 10

レ ー ス の 手 引..... 11

記 録 表..... 12

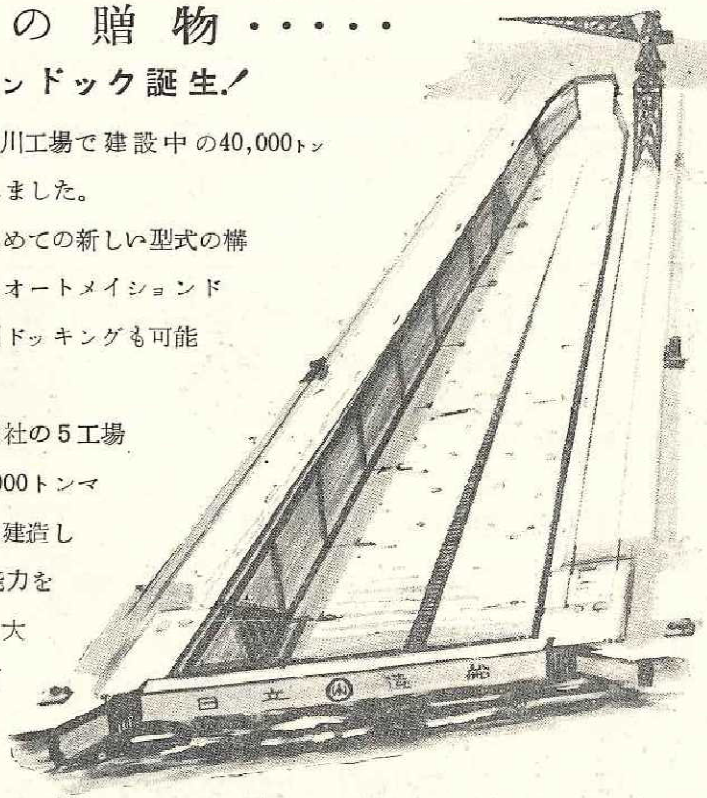
海 運 界 へ の 贈 物

デラックス 40,000 トンドック誕生!

横浜港の近くにある当社神奈川工場で建設中の40,000トンドックが、6月5日に完成しました。

このドックは、わが国ではじめての新しい型式の構造と高能率の設備をそなえたオートメイションドックで、海運界待望の24時間ドッキングも可能というすばらしいものです。

わが国の、樞要の地にある当社の5工場では、小型高速舟艇から65,000トンマンモスタンカーまでの船舶を建造し名実ともに日本最高の修繕能力をもつ日立造船では、いつでも大型船舶の修繕にも応じうる万全の体制がととのっております。



日立造船

創業1881年

本 社
東京支社

大阪市北区中之島2丁目25

東京都千代田区丸の内2丁目20の1

第三回全日本カッター競技大会に寄す

海上保安大学校々長 砂 本 周

『濃藍の大洋よ、万を数える艦隊も汝の上を跡もなくかすめ通るにすぎない。人間は地上にて破壊の跡をしるすが、その力のおよぶのは岸にとゞまる。大海原の上では、破壊はすべて、汝の業、汝の自由。しかし大洋よ、わたしは海を愛した。わたしの若き日の喜びは、汝の胸に抱かれて、泡沫のごとくただよふことにあつた。』このパイロンと海への情熱を競う幾十幾百の若き学徒が、こゝにつどい、そして、こう叫ぶ。『おう大洋よ、我には汝を愛すればこそ、汝の気紛れな破壊を許すわけにはゆかない。そのために自らの力を養ひ自らの技を鍛えようとして、こゝに熱血の祭典を開くのだ。』

M（マイルド）とB（ビューティフル）とQ（クアイエット）とでとり囲まれた麗女島を背景に、ダイナミックな筆致で巨匠のものする絵巻が繰り広げられようとしている。そこには学生スポーツの真髄が発揮されるに違いない。ようやく九才を迎えた我が学園もそのために奮いたつて進まない。

当校のオ八回記念祭に当り、この地で意義深いオ三回全日本カッター競技大会を催すことに御協力を賜つた各大学及び関係各位の御友情を深く感謝する。

挨拶

一昨年の六月、日本カッター連盟設立の意気に燃えて、オ一回全国大会を東京に於て開催して以来早や三年、昨年の神戸におけるオ二回大会に引続いてこゝに今大会を具に於て開催することになり、我々一同喜びを新たにします。全国大会は年々発展の一途をたどり参加校も次々にその数を増して参りました。連盟設立の気運も漸く熟して来たかの感があります。

この時にあたり、我々は諸方の絶大なる御支援の下、今大会をより一層充実したものとし、併せて、大会の主目標の一つたる親睦を深め連盟の大いなる飛躍発展の基いとせんことを願うものであります。

こゝに、諸方より寄せられました温い御支援に対し、心から感謝の意を表すると共に、今後共一層のお力添えをお願いする次第であります。

日本カッター連盟設立発起人会

	部	長	主	将
海 枝 専 問 学 院	片 上	主 四 郎	伊 藤	二 郎
海上自衛隊幹部候補生学校	増 野	秀 次	立 石	格 行
鹿 児 島 大 学	源 河	朝 之	慶 田	敏 光
神 戸 商 船 大 学	西 原	義 久	余 田	光 嘉
東 京 商 船 大 学	中 島	保 司	中 村	嘉 隆
東 京 水 産 大 学	佐 々 木	幸 康	金 秋	希 昭
長 崎 大 学	麻 生	幸 則	秋 牛	希 久
農 林 省 水 産 講 習 所	橋 本	市 雄	金 平	武 芳
防 衛 大 学 校	平 山	茂 男	吉 村	芳 貞
三 重 県 立 大 学	細 川	鉄 雄	吉 村	洋 夫
海 上 保 安 大 学 校	片 岡	勝 之	若 官	

大 会 役 員

会 長	海上保安大学校々長	砂 本	周	一
役 員	海 技 専 門 学 院	片 上	圭 四	郎
	海上自衛隊幹部候補生学校	増 野	秀 朝	次
	鹿 児 島 大 学	源 河	朝 義	之
	神 戸 商 船 大 学	西 中	保 幸	久
	東 京 商 船 大 学	佐 々	木 幸	司
	東 京 水 産 大 学	麻 橋	生 本	康
	長 崎 大 学	橋 平	山 川	則
	農林省水産講習所	細 掘	内 雅	雄
	防 衛 大 学 校			男
	三 重 県 立 大 学			雄
	海上保安大学校			文

審 判 長

大 会 委 員

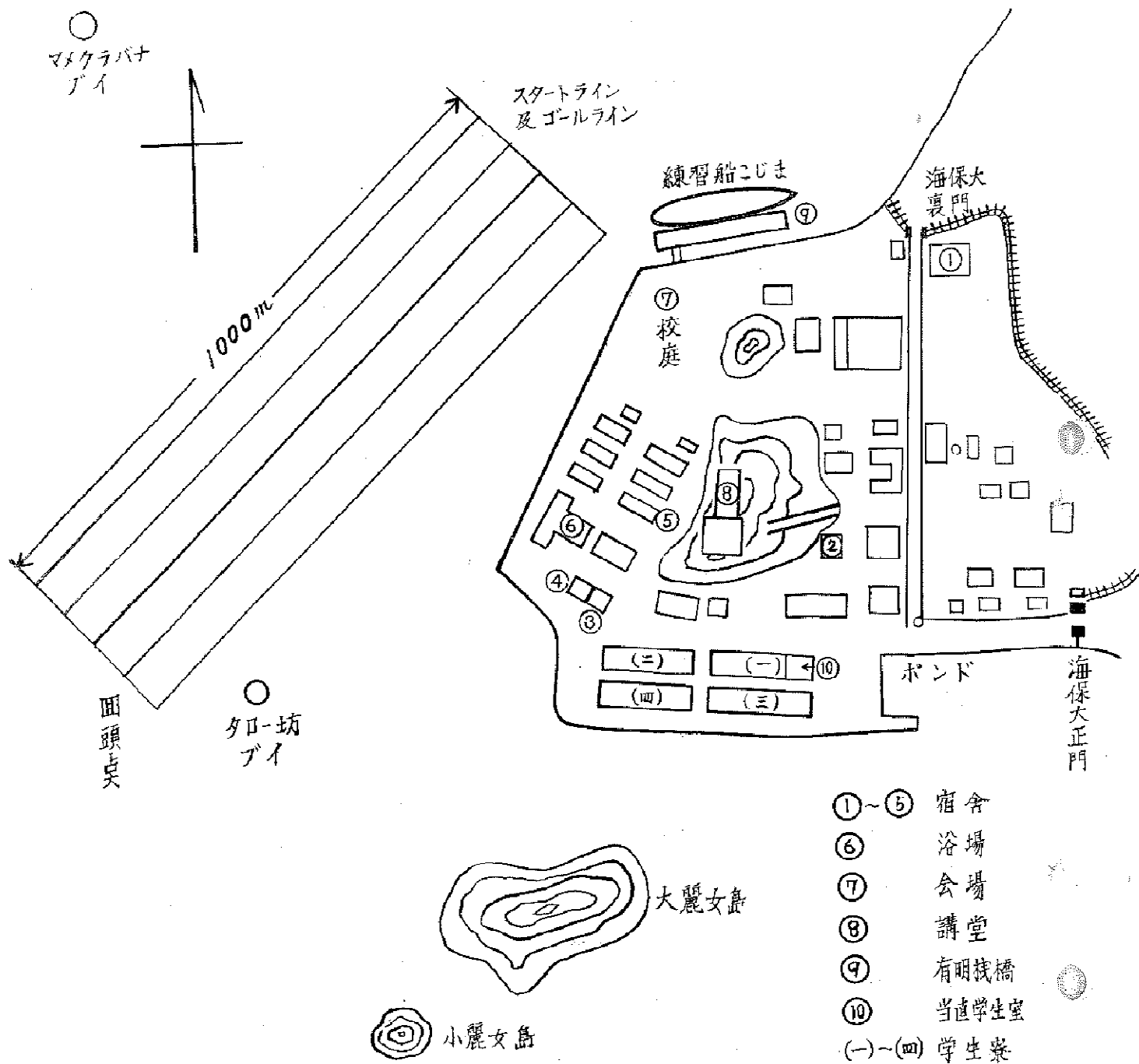
委 員 長	前 田 政 昭			
審 判 録 行 船 場 待 絡 安	中 山、 富 永、	坂 本、 安 部		
記 進 配 会 接 連 保	本 村、 川 崎、	谷 口 賀、 富 森		
	田 坂、 山 崎、			
	北 沢、 田 所、			
	北 村、 小 野			
	梅 山、 本 多	柳 田、 尾 造、	白 磯	水 道
	君 塚、 大 鍋、	藤 本、 菅 野、		
	山 口、 大 槻、	本 宮 元、 辻		
	岩 本、 清 林、			
	本 多、 中			

吳市吉浦新町五丁目九番地

株 式 会 社 吳 製 砥 所

取締役社長 高 橋 満

電 話 代 表 吳 ② 6 1 7 1 番
支 店 東 京 ・ 大 阪 ・ 名 古 屋 ・ 小 倉



船舶建造修理

株式会社 神田造船所

取締役社長 神田 猛

本社 呉市吉浦新町3丁目28番地 TEL②6092・6971
 神戸営業所 神戸市生田区栄町通2丁目45番地 TEL③6881
 鹿児島営業所 鹿児島市郡元町418番地 TEL④802

海 技 専 問 学 院		(◎主将 ○ マネジャー)				
	氏 名	身長	体重	科・学年	出身校(県)	
顧問	片上圭四郎					
艇指揮	山本香	167	60	本N-2	広島商船学校(山口)	
◎艇長	伊藤二郎	171	60	本E-2	鳥羽商船学校(三重)	
1	竹内康	160	58	本E-1	大島商船学校(宮崎)	
2	原計治	168	65	本N-1	海技専門学院(兵庫)	
3	松井修	167	58	本E-1	鳥羽商船学校(千葉)	
4	武田元司	168	55	甲2-N	朱雀高校(京都)	
5	原田康彦	164	60	本E-2	広島商船学校(岡山)	
6	小山日出雄	164	60	本E-1	広島商船学校(兵庫)	
7	芝徳行	173	75	甲1-E	海技専門学院(愛媛)	
8	青井淳	171	70	甲2-N	岡山操山学校(岡山)	
9	池上利男	163	55	本N-1	海技専門学院(石川)	
10	新谷英爾	166	60	甲2-N	二水高校(石川)	
11	小沼龍介	161	65	甲2-N	海技専門学院(山形)	
12	大下倉伶三	163	60	本E-1	鳥羽商船学校(京都)	
○	魚野政成	167	60	本N-2	海技専門学院(新潟)	
補	山口成章	167	65	本N-1	海技専門学院(千葉)	
補	西岡茂生	155	64	本E-2	海技専門学院(三重)	
補	竹内茂	170	70	甲2-N	海技専門学院(三重)	

海上自衛隊幹部候補生学校

顧問	増野秀次	160	53	海軍兵学校
艇指揮	諏訪部泰正	169	60	防衛大学校
艇長	田中晃	166	55	防衛大学校
1	小池巖	164	60	防衛大学校
2	守田豊	164	58	防衛大学校
3	中山泰彦	170	62	防衛大学校
4	藏園東洋	162	63	防衛大学校
5	寺尾宏	164	64	防衛大学校
6	千葉元彦	173	62	防衛大学校
7	黒川武彦	166	62	防衛大学校
8	阿部栄一	162	65	防衛大学校
9	佐々木邦秀	169	75	防衛大学校
10	益田瑞来	172	68	防衛大学校
11	乘立哲雄	171	63	防衛大学校
◎12	立石格	160	61	防衛大学校
補	菅俊一	170	65	防衛大学校
補	山中博成	163	63	鹿兒島大学
○	中村成生	167	58	海上保安大学校

株式会社

吉 浦 造 船 所

取締役社長 武 田 信 夫

呉市吉浦新町二丁目拾二番地

T E L 呉 吉 浦 5 3 ・ 1 1 6

鹿 兒 島 大 学

願 問 艇 指 揮 艇 長	源 天 河 朝 之 天 野 信 文 三 葛 健 也 門 田 伸 仲 中 島 村 靖 吉 津 勝 都 築 源 今 吉 原 龍 檀 慶 田 敬 手 清 光 政 村 水 上 正 梶 原 尚 市 原 秀 開 田 栗 彰 田 栗 彰	夫 之 隆 重 啓 一 也 行 司 雄 美 志 彦 夫 夫	158 162 164 166 162 165 165 178 172 179 169 172 169 178 167 164 163	52 50 56 61 62 63 62 65 68 68 60 62 62 62 70 58 54	製 造 2 漁 業 2 漁 業 1 漁 業 1 漁 業 3 製 造 3 漁 業 2 漁 業 2 漁 業 2 漁 業 3 漁 業 2 漁 業 2 漁 業 3 漁 業 2 漁 業 1 漁 業 1 漁 業 3	取 府 本 葉 島 野 野 口 岡 川 岡 崎 京 岡 玉 島 岡 分 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 米 北 出 東 志 上 山 上 鶴 修 佐 南 嘉 浦 鳴 大 子 野 水 邦 布 田 口 上 見 漱 世 南 德 和 門 半 分 西 高 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 校 (大 熊 千 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 鹿 取 阪 本 葉 島 野 野 口 岡 川 岡 崎 京 岡 玉 島 岡 分)
---------------------	---	-------------------------------	---	--	---	--

神 戸 商 船 大 学

願 問 艇 指 揮 艇 長	西 原 義 久 武 内 周 二 余 田 光 男 高 野 光 郎 德 野 三 郎 齊 九 藤 順 高 租 建 一 辻 井 圭 介 河 村 卓 男 横 山 恒 人 森 本 靖 之 菅 野 治 二 旭 田 中 俊 二 田 佐 野 正 宏 富 国 崎 山 榮 肇 濤 山 内 一 内 山 内 文 悟 岡 室 文 男	久 二 男 郎 順 泰 郎 介 男 人 之 治 二 宏 肇 一 悟 男	163 165 173 168 174 173 170 170 173 168 173 167 167 165 164	63 64 65 63 64 61 63 62 63 67 68 65 62 64 60 63	N3 N4 E2 N2 N2 N2 N2 E3 N2 N2 E3 N2 E2 E2 E2 E3 N4 E4	板 橋 高 校 (東 京) 六 甲 学 院 高 校 (兵 庫) 阿 国 高 校 (千 葉) 長 田 高 校 (兵 庫) 姬 路 西 高 校 (兵 庫) 佐 賀 高 校 (佐 賀) 桃 山 高 校 (京 都) 福 知 山 高 校 (京 都) 仙 台 高 校 (仙 台) 高 津 高 校 (大 阪) 熊 本 高 校 (熊 本) 別 府 鶴 見 丘 高 校 (大 分) 明 石 高 校 (兵 庫) 高 松 高 校 (香 川) 金 光 学 園 高 校 (岡 山) 卷 高 校 (新 潟)
---------------------	--	-------------------------------------	---	--	--	--

船 舶 建 造

藝 備 造 船 工 業 株 式 会 社

広 島 県 呉 市 天 応 町 字 天 崎
電 話 吉 浦 局 1 1 3 ・ 3 0 5 番

東 京 商 船 大 学

願 間 艇 指 揮 長	中 官 嶋 保 司	169	69	N4	北 豊 島 工 高 校 (東 京)
艇 長	官 嶋 本 崇 仁	168	63	E3	廣 島 商 船 高 校 (廣 島)
1	松 本 健 二	170	60	N3	尾 島 高 校 (岡 山)
2	吉 本 村 彰	160	58	E3	徳 山 高 校 (山 口)
3	水 越 勝 人	168	63	E3	下 館 一 高 校 (茨 城)
4	齊 藤 礼 文	173	61	E3	干 才 高 校 (東 京)
5	市 川 彪 光	166	63	E3	土 浦 一 高 校 (茨 城)
6	北 嶋 武 尚	167	65	E3	小 城 高 校 (佐 賀)
7	前 田 林 一 幸	174	62	E3	小 高 崎 高 校 (福 岡)
8	小 三 浦 康 孝	174	68	E3	高 崎 高 校 (群 馬)
9	三 宮 森 孝 宏	178	72	E3	相 馬 高 校 (福 島)
10	宮 森 中 羽 村 島 田	167	64	E3	都 立 西 高 校 (東 京)
11	森 島 中 羽 村 島 田	172	61	E3	日 本 三 育 学 院 高 校 (神 戸)
12	中 北 藤	172	62	E3	佐 原 一 高 校 (千 葉)
◎		166	56	N4	修 猷 館 高 校 (福 岡)
○		179	68	E4	小 日 原 高 校 (神 奈 川)
補		173	64	E3	三 条 高 校 (新 潟)

東 京 水 産 大 学

願 間 艇 指 揮 長	佐 々 木 幸 康	173	64	漁4	熊 本 高 校 (熊 本)
艇 長	未 次 野 信 夫	165	60	漁4	甲 府 二 高 校 (山 梨)
1	松 山 隆 治	169	61	漁2	伊 都 高 校 (和 歌 山)
2	西 行 泰 平	175	66	漁2	大 野 高 校 (福 井)
3	福 永 隆 幸	170	61	漁3	関 西 学 院 高 校 (兵 庫)
4	伊 東 柳 幸 久	167	64	漁2	飯 山 北 高 校 (長 野)
5	高 近 藤 孟 均	171	70	漁2	富 山 中 部 高 校 (富 山)
6	山 本 中 田 芳 武	174	68	漁2	静 岡 高 校 (静 岡)
7	田 源 金 有 国	173	64	漁2	伏 見 高 校 (京 都)
8	源 金 有 国	171	65	漁2	津 高 校 (三 重)
9	金 有 国	166	64	漁3	西 官 高 校 (兵 庫)
◎		176	70	漁3	熊 谷 高 校 (埼 玉)
○		176	70	漁3	熊 山 田 高 校 (福 岡)
11	有 国 遠 石	166	62	漁2	山 本 深 志 高 校 (長 野)
12	遠 石	167	64	漁2	立 川 高 校 (東 京)
補		169	64	漁2	高 崎 高 校 (群 馬)
		161	54	漁2	

木 鋼 船 の 建 造 修 理

株 式 会 社 江 田 島 造 船 所

取 締 役 社 長 出 来 谷 勘 市

広 島 県 安 芸 郡 江 田 島 町 小 用

TEL 江 田 島 58・71・261・270

長 崎 大 学

顧問 艇指揮 艇長	麻中	生原	幸儀	則介		漁3	佐世保南高校(長崎)
1	岩中	島本	信泰	次雄	156	漁3	玉名高(熊本)
2	仲本	道三	泰三	明彦	171	漁3	久米附設高(福岡)
3	佐々木	々々	木	昇泰	161	漁3	久米附設高(福岡)
4	松尾	川木	義夫	泰夫	162	漁2	福岡中央高(福岡)
5	村川	村武	義夫	長彦	160	漁3	福岡中央高(長崎)
6	中江	川智	武泰	彦忠	170	漁3	川棚高(福岡)
7	越寺	田智	秀秀	忠夫	168	漁3	鞍手上野丘高(大分)
○ 8	友大	安智	秀秀	忠夫	173	漁3	大分南高(福岡)
6	秋木	場沢	秀秀	忠夫	165	漁3	大分南高(大分)
10	木福	戸山	陸俊	夫児	175	漁3	大分南高(兵庫)
11			俊恭	児望	167	漁3	関西学院高(福岡)
◎ 12			恭希	望一	165	漁3	朝倉高(福岡)
補			隆一	彦	161	漁3	東筑北高(福岡)
補			一彦		168	漁2	大牟田高(熊本)
					160	漁2	吉高(熊本)

農 林 省 水 産 講 習 所

顧問 艇指揮 艇長	橋本	市雄				漁3	別府鶴見丘高(大分)
1	吉坂	博康	康	168	62	漁3	根室高(北海道)
2	藤野	靖治	彪	165	62	製2	修館高(福岡)
3	宮野	康治	治	168	65	製2	久米大附屬高(福岡)
4	岡安	勝彦	男	175	65	機3	八幡中央高(福岡)
○ 5	牛島	武彦	彦	176	68	機2	串本高(和歌山)
6	小久保	哲克	久	168	66	漁3	山鹿高(熊本)
7	前田	昭徹	大	171	68	漁2	川越高(埼玉)
8	疋高	徹二	徹	173	72	製2	山鹿高(熊本)
9	佐倉	潤宝	二	173	73	漁3	府立楼塚高(大阪)
10	伯綿	宝一	一	176	72	製3	延岡恒宮高(宮崎)
11	干真	島木	勝	175	75	漁2	徳山高(山口)
12	真木	正宗	博	174	76	製2	佐賀高(佐賀)
補	員平	正古	武	167	65	漁2	鶴岡南高(山形)
補	寺村	英忍	寛	167	64	漁3	高岡高(宮崎)
			英	174	65	増2	府立清水谷高(大阪)
			忍	175	72	漁4	杵築高(大分)
				163	60	漁2	泉丘高(石川)

楽しい雰囲気……
……美しい音楽

パ ー シ ー ロ ー ス

呉・本通り2丁目 TEL②4025

祝 全日本カッターレース

天満屋精肉店

呉市松本町45 TEL②3260

防 衛 大 学 校

願 問 艇指揮 艇長	平山茂男	金沢芳也	西沢敬雄	渡野訓行	田口三善	苑田三孝	中野凱夫	石菅友謙	菅条晴英	清山永口	山辻利祥	宮内藤敦	伊井出俊	井本哲	森原良	松口隆	松本晃	173	70	機 4	海軍兵学校(千葉)
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	補	補	補	補	補	補	163	55	航工4	岡山商業高校(岡山)
																		167	65	機 4	熊本高校(熊本)
																		162	60	電 3	日南高校(宮崎)
																		167	64	機 4	五島高校(長崎)
																		166	67	航工3	志布志高校(鹿児島)
																		165	65	電 3	(福井)
																		166	65	電 3	佐賀高校(佐賀)
																		166	73	機 3	水戸一高(茨城)
																		172	70	機 3	名取高(宮城)
																		175	70	電 3	熊本齊々高(熊本)
																		167	66	機 4	八幡高(福岡)
																		172	70	機 4	都立西高(東京)
																		167	64	応化3	仙台二高(宮城)
																		162	65	応物3	四日市高(三重)
																		160	58	機 4	志布志高(鹿児島)
																		165	60	電 3	大手前高(香川)
																		175	73	機 3	国分高(鹿児島)
																		166	61	機 3	佐賀高(佐賀)
																		163	57	応物4	呉阿賀高(広島)

三 重 県 立 大 学

願 問 艇指揮 艇長	細川鉄雄	川川敦雄	山十六生	杉橋美雄	高岡真一郎	田中卓郎	神宮正信	黒石昇	王越良治	井本秋生	稲葉源晴	石倉端正	川端永正	富永保田	久津栄二	浜吉康平	吉村寿洋	沢屋勝久	172	63	漁 3	札幌北高(北海道)
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	補	補	補	補	補	補	167	65	漁 3	津東海高(三重)	
																		170	60	1	小豆島高(香川)	
																		164	55	1	桜ヶ丘高(石川)	
																		170	68	1	津高(三重)	
																		160	65	1	松陰高(愛知)	
																		167	59	1	鳥羽高(三重)	
																		164	55	1	津高(三重)	
																		167	63	2	宇治山田高(三重)	
																		172	57	2	富来高(石川)	
																		170	60	2	四日市高(三重)	
																		172	65	2	昭和高(愛知)	
																		162	60	3	宇治山田高(三重)	
																		164	60	3	京都府立水産高(和歌山)	
																		172	60	3	県西官高(広島)	
																		174	60	3	四日市高(三重)	
																		167	57	3		
																		169	55	2		

各 種 活 版 印 刷
高 級 美 術 印 刷
ポ ス タ ー ・ レ ッ テ ル
チ ラ シ ・ 包 装 紙

紙 と 印 刷

呉 正 印 刷 株 式 会 社

呉 市 岩 方 通 6 丁 目 1 4

T E L 呉 ② 3 4 9 6 ・ 5 6 2 9

海上保安大学校

願 問	片 岡 勝 之	163	60	4	三 田 学 園 高 校 (兵 庫)
艇 指 揮	大 高 原 部 善	161	62	4	岡 山 朝 日 高 校 (岡 山)
艇 長	高 嶋 山 木 正	166	61	3	八 代 高 校 (熊 木)
1	高 嶋 山 木 正	166	61	3	佐 沼 高 校 (官 城)
2	高 上 原 立 健	170	62	3	桐 蔭 高 校 (和 歌 山)
3	高 上 原 立 健	168	55	3	長 野 高 校 (長 野)
4	小 大 西 浩	168	65	3	松 山 北 高 校 (愛 媛)
5	大 佐 々 木 忠 輝	170	61	3	松 山 南 高 校 (愛 媛)
6	大 佐 々 木 忠 輝	172	67	1	築 館 高 校 (官 城)
7	辻 伊 藤 藤 寿 兵 朗	173	74	3	函 館 中 部 高 校 (北 海 道)
8	伊 藤 藤 寿 兵 朗	177	65	3	石 巻 高 校 (官 城)
9	鳥 宮 貞 健 武 虎 夫	175	74	3	石 巻 高 校 (官 城)
10	鳥 宮 貞 健 武 虎 夫	179	71	4	福 屋 高 校 (兵 庫)
◎ 11	若 津 大 菅 波 礎	170	63	3	山 水 高 校 (鹿 兒 島)
12	若 津 大 菅 波 礎	170	59	1	戸 山 高 校 (東 京)
補 補 補 補	大 菅 波 礎	172	62	1	仙 台 弁 二 高 校 (官 城)
補 補	磯 田 坂 山 克	170	61	1	大 牟 田 南 高 校 (福 岡)
○	磯 田 坂 山 克	171	60	1	広 高 校 (広 島)
○	梅 山 克	168	60	4	国 泰 寺 高 校 (広 島)
	梅 山 克	161	58	3	栃 木 高 校 (栃 木)

審 判 規 則

1. 使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。
2. スタート
 1. 各艇は指定の時刻コース順に従いスタートラインに整列する。
 2. 5分前をマイクにより通達、スタートブイにつく、ブイに着き用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する。
 3. スタート用意；号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する。
 4. スタート；頭上の手旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。
3. 審判長、審判員がスタートを不完全と認めた時は直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断
4. スタートに於ける号令前の飛出し、及び艇の事故によるスタートの遅速等は2回で失格である。
5. 回頭は左回頭（反時計回り）とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし、他の回頭旗を回頭した場合、及び回頭旗に艇又はオールの一部でも接触した場合は失格である。
6. ゴール
艇首が規定のゴールラインに入つた順序をもつて順位とし、順序は審判員が判定する。
7. 同着の場合は追込艇の勝とする。
8. ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。
9. 各艇は自己のコースを航行し、もしこれを誤つて他艇に接触その他不正行為があつたと審判員の認めた時は失格とする。
10. レース中のコースに於ける障害、自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでない時もある。
11. レースに関する異議申立等は艇指揮がこれを行い、審判長が裁決する。
12. オールは予備2本を積む。

レースの手引

本大会に使用される艇は外板鋳張で長さ9m12人漕のカッターである。カッターとは一般の救命艇（艀、艀同型）と異り、艇を切落した形になつてゐるのでこの称がある。マストを立て、帆走することも出来るようになつてゐる。

艇を操作してゐるものをクルーと称し、その名称は右舷（艇尾より艇首に向つて右側）の最も艇首に近い者が1番、左舷の最も艇首に近い者が2番（この2人をBowmenという）、以下右左舷交互に3,4,……11, 12番までである。11, 12番を特にStrokemenと呼び槳漕の場合この2人が基準となる。艇尾で舵を握つてゐるのが艇長であり、艇の指揮号令を掌つてゐるのが艇指揮である。即ち艇指揮がその艇の全ての指揮を司る。

スタートは各艇の艇首が一直線上に並んだとき、手旗、号笛、号砲の信号を以つて行ふ。レース距離は往復2000mであつて、スタートラインより1000mの所に、各コース毎に回頭旗が立てられており、各艇はこれを左回り（反時計回り）に回頭して帰つてくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインとなる訳である。ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。ピッチ即ち1分間に漕ぐ回数は大体30前後であり、レース所要時間は10分余である。即ち5~6ノットの速度となる。参考迄に内海連絡船等小型機船の速度は大体6~12ノットである。

カッターレースは10分余の間、一瞬といえども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致してゐることを要する。レースの見所は、ピッチをいくらに定めるか、スタートダツシユ、回頭、ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等特に注目すべき点であるが、その他にクルーの一条乱れぬ一挙手一投足に他の競技には見られぬよきがある。

カッターレースは実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

なお、前回までの主な順位は次の如し、

※1回大会（昭32. 於東京） ① 東京水産大 ② 東京商船大 ③ 神戸商船大 ④ 防衛大

※2回大会（ 33. 於神戸） ① 東京水産大 ② 農林省水産講習所 ③ 東京商船大 ④ 防衛大



三井造船株式會社 玉野造船所

専務取締役社長 大 前 玉 男

岡山県玉野市玉10番地 電話 玉野(代表)3111番

本 社 東京都中央区日本橋室町2丁目1番地（三井本館内）

営業所 神 戸・大 阪 出張所 福 岡・名 古 屋

時刻	種目	コース	校名	着順	タイム
0900	開 会 式				
0930	予選1レース				
1000	予選2レース				
1030	予選3レース				
1100	昼 食 休 憩				
1230	敗者復活レース				
1530	順位決定レース				
1600	決勝レース				
1630	閉 会 式				

クレセンの

勉強机・万能机・食堂テーブル

呉船木材株式会社

取締役社長 松 本 利 雄

本 社 呉 市 広 町 北 古 新 開

電話(代) { ⑦ 7165 ⑦ 7166
⑦ 7302 ⑦ 7634

営業所 東 京 ・ 名 古 屋 ・ 大 阪



船舶艦艇新造修理 三菱横浜 G-E ボイラー
横浜MANディーゼル機関 三菱横浜可変ピッチプロペラ
鉄 構 製 品 産 業 機 械

取締役社長 櫻 井 俊 記

三菱日本重工業株式会社

本 社 東京都千代田区丸ノ内2の4 電話 東京(28) 2351(大代表)
大阪営業所 大阪市北区梅田町47新阪神ビル4階 電話 大阪(36) 7531(代)



吳信用金庫

理事長 三宅清兵衛

吳市中通9丁目20

電話代表②6161



吳相互銀行

取締役社長 勝田友彦

吳市本通五丁目

電話代表②6651番

15 36
2

時刻	種目	コース	校名	着順	タイム
0900	開 会 式				
0930	予選オ1レース	51	長崎	4	13-46.2
		62	海喜	3	13-09.1
		4	三重	2	12-39.2
		3	東水	1	12-16.2
1000	予選オ2レース	3	鹿嶋	4	15-16
		6	下関	1	12-20.8
		4	東商	2	12-35.1
		5	幹修	3	12-14.7
1030	予選オ3レース	5	神商		12-28.8
		6	海大		11-59.2
		4	防大		12-02.
1100	昼 食 休 憩				
1230	敗者復活レース	61	東船	2	11-53.4
		42	防大	1	11-45.7
		53	三重	4	12-15.7
		34	神船	3	12-08.5
1530	順位決定レース	51	長崎	3	12-58.1
		62	海喜	2	12-39.8
		33	幹修	1	12-05.3
		44	鹿嶋	4	13-25.6
1600	決勝レース	51	東水	3	12-03.6
		32	防大	4	11-52.7
		43	海喜	2	11-36.3
		64	水清	1	11-35.6
1630	閉 会 式				

1330